

三重県

私にできること

高田中学校 一年

藤崎 柚衣

「琵琶湖の水は昔、きれいやってんで。」

私の祖父は子供の頃、裏庭が琵琶湖に面している家に住んでいたそうです。毎朝、一日分の水を「水がめ」という容器に一杯、琵琶湖からくんでくのが子供の仕事で、その一杯の水で食事から食器洗いまでのすべて琵琶湖の水で生活していたそうです。毎日使っていたその水がめは、今は祖父の家にあつて、私は何度も見たことはあつたけれど、祖父の家族六人でこの量で足りるの？と思うほど小さく、一日分の水を入れるものとは思えませんでした。五人家族の私の家では絶対に足りないと思うような量です。祖父は「顔を洗うのも歯を磨くのも琵琶湖の水で、琵琶湖の水は自然が浄化してくれていたんやで。」と話してくれました。

一昨年の夏、私は滋賀県高島市であつた曾祖父の法事で、琵琶湖の見えるホテルに泊まりました。初めて見た琵琶湖の水は、きれいだったけれど、祖父が言っていたこととは違い、水面は緑色にごつていて、飲めるような透明の水ではありませんでした。本当に海じやなくて湖なの？と思うほど、琵琶湖は広くて水でいっぱいでした。

祖父が話してくれたことで、私はなぜ、琵琶湖が汚れてしまったのか知りました。生活が便利になるにつれて、工場や家庭から出される水や洗剤に含まれる窒素やリンが原因で琵琶湖の水質が悪化し、少しずつ汚れていってしまったそうです。

今の私の生活は、蛇口をひねれば、水が出るのが当たり前になつていたので、「今日は一日これだけの水で過ごそう。」なんて思ったこともないし、お風呂では、母に「シャワーを出しっぱなしにしないで！」とよく叱られます。祖父の時代ではみんな

なに限られた水への感謝の気持ちを持っていたのに、今の私の生活では、当たり前のように毎日本水を使うことで水を汚して無駄にしていたかも知れない、ということなど考えたこともありませんでした。

先日、テレビで豊川用水の貯水率が下がってきたので節水を呼びかけているというニュースを見ました。私は雨が降らないと水がなくなるということを考えてこともありませんでした。雨が自分たちの使っている水とつながっていることも考えたことがありませんでした。雨の日は学校へも行きにくいし、濡れるのできらいだったけれど、水不足になるのはもつと困るので、「雨の日も大事なのだな。」と思えるようになりました。祖父が子供の頃に琵琶湖はいつもきれいと思つていたけれどそうではなくなつたように、私が見た水でたっぷりの琵琶湖もいつか水がなくなつてしまふかもしれないと思うと怖くなりました。

私たちが自分の水の使い方をちよつと変えるだけで水が汚れたり、なくなつたりすることを防げるのだと思います。シャワーをこまめに止めたり、歯磨きや顔を洗っているときも、水を流しながらするのではなく、コップに溜めてからするなどちよつとした工夫を実際にみんながすると、いろいろな場所ですしずつ環境が変わっていくのだと、私は思います。水が蛇口から出るのは、当たり前ではなく、自然が与えてくれた物です。服に油性ペンで書くのは簡単でも、消すのは難しいように、水は簡単に汚れてしまうけれど、なかなか元のように戻すのは長い年月と多くの人の努力が必要で、とても難しいということを知りました。私たち一人一人が水の使い方を変えられるだけで、水が汚れにくくなつたり、水不足を防げたりすると思います。

限られた水を未来へ残していくために、私はこれからも水の大切さを考え続け、祖父が話してくれたきれいな水にするために、普段の生活から心がけて、自分から水の一滴一滴を大切に使い続けていきたいです。